

2024年度

一般社団法人 社会福祉経営全国会議
管理職養成学校

—第4期総括—



一般社団法人 社会福祉経営全国会議

543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6 - 902

TEL:06-6772 - 1360 FAX:06-6772 - 1376

E-mail:jimukyoku1@f-zenkoku.net

社会福祉経営全国会議 第4期 管理職養成学校 講義一覧

回	日時と場所	テーマと内容
開校式	2024年8月22日(木) 14時～17時 Zoom 配信 (こぼと福祉会)	<ul style="list-style-type: none"> ■茨木範宏 社会福祉経営全国会議会長 挨拶 ■垣内国光 管理職養成学校講師 挨拶 ■管理職養成学校受講生への期待 受講生オリエンテーション 第3期生からのメッセージ (山下記永・中岡宏美)
第1回	2024年9月19日(木) 10時～17時 Zoom 配信 (こぼと福祉会)	<p>「管理職に求められるもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 垣内国光氏 明星大学名誉教授・多摩福祉会理事 ■プレゼン、グループワーク
第2回	2024年10月24日(木) 10時～17時 Zoom 配信 ((こぼと福祉会)	<p>「社会福祉法人のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 茨木範宏氏 社会福祉経営全国会議会長・大阪福祉事業財団理事長 ■プレゼン、グループワーク
第3回	2024年11月21日(木) ～22日(金) 現地参加 京都与謝野町 よさのうみ福祉会 会場 リフレかやの里 シオノ鋳工 やすらの里	<p>「法人の組織運営について」 一泊研修、フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 青木一博氏 よさのうみ福祉会理事長 同 藤原さゆり氏 よさのうみ福祉会 ワークセンター花音 管理者 同 塩野浩士氏 株式会社シオノ鋳工代表取締役 ■施設等見学、プレゼン、フィールドワーク
第4回	2024年12月19日(木) 10時～17時 Zoom 配信 (こぼと会)	<p>「財務分析と事業計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 講師 山本匡人氏 (株)大阪中央会計事務所 税理士 ■プレゼン、グループワーク
第5回 修了式	2025年1月30日(木) 12:30 受付 13時～17時 Zoom 配信 (こぼと福祉会)	<p>「卒業発表、中長期事業計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プレゼン、グループワーク ■修了式、修了証授与 ■茨木範宏 社会福祉経営全国会議会長 挨拶 ■浜岡政好 管理職養成学校 学校長 式辞 (録画配信) ■桑原一章氏 大阪福祉事業財団 事務局長 次世代を担う管理職へのメッセージ
アフター フォロー 講座	2025年4月25日(金) 14時～17時 会場 たかつガーデン	<p>「中長期計画具現化の達成に向けて 今後の見通しと決意を語ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講義 「管理職」の使命を考える 講師 垣内国光氏 ■プレゼン、グループワーク

◆2024 年度 管理職養成学校 総括集 もくじ◆

1. 社会福祉経営全国会議第 4 期管理職養成学校を終えて
2. 管理職養成学校 各受講生ゼミ活動報告
情熱大陸∞∞
ブロッサム
C+ピースナッツ★
未来
3. 各受講生感想文(全課程を通して)
4. 第 4 期受講生名簿
5. ディプロマポリシー

1. 社会福祉経営全国会議 第 4 期管理職養成学校を終えて

管理職養成学校事務局 関口奈緒美／仁木 悟／五藤 清子／伊藤 輝人
吉川 継史／萩原 哲平／寺田 恒／西田 健太

「次代の社会福祉経営を担う経営職・管理職の育成」の具体施策のひとつとして実施している管理職養成学校。

2024 年 8 月の開校式からスタートし、2025 年 1 月 30 日の修了式まで、受講生 24 名が切磋琢磨し、交流を拡げながら学校事務局と共に半年間の学びを終えることができました。その様子を報告したいと思います。

管理職養成学校の目的

- ① 権利としての社会福祉・社会保障の追求と事業の推進を目指す、社会福祉の担い手を育成します
- ② 見極める力、見通す力、戦略を組み立てる力、実行する力を重視し、管理職に求められる知識・技術・資質を育てます

I 概観

社会福祉経営全国会議が結成されて、早いものでもう 4 期目となる管理職養成学校となりました。

例年募集人数よりも多くの方に申し込みいただき、全国の会員法人の方たちの次世代の管理職育成について、大変関心をお持ちであることがうかがえます。

第 2 期・第 3 期に引き続き、オンラインを主体とすることで、全国の会員法人からの参加がしやすい形態となっています。また、ゼミ活動もオンラインがあることで、講座と講座の合間に「自主ゼミ」を開催し、活発なゼミ交流が第 4 期も見られました。

第 3 期に手掛けた「ディプロマポリシー」が完成して初めての養成学校でした。ディプロマポリシーとは、大学等で卒業の基準とされているものですが、私たちはそれを養成学校で『獲得すべき力』にとらえ、そして学校の質を担保するツールとしても重要なものと考え、浜岡学校長や垣内先生のお力をお借りして、論議を重ね、一つひとつの字句を磨き上げ完成させたものです。その「ディプロマポリシー」を受講生や推薦人、サポーターの方に開校式でお知らせをして、第 4 期がスタートしました。

8 月におこなわれた開校式では、受講生が自ら「学びたい」「つながりをもちたい」という気持ちを高らかに出席していることが伝わり、事務局一同も一緒に学びを深めなければと気を引き締める思いとなりました。

第 1 講座から第 5 講座までの具体的な様子を第 2 節で振り返っていききたいと思います。

II 各講座の振り返り

第 1 講座「管理職に求められるもの」2024.9.19

講座のねらいは…

- ①管理職に求められるものを講義とグループワークを通じて共有する
- ②自分自身を客観的に分析し、現職場や法人の中の管理職としてどのような役割を担っているか、課題は何かを認識し、どう変化していきたいかを獲得する
- ③管理職として必要である「わかりやすく伝える」「理解を促す」トレーニングとする
- ④社会福祉経営全国会議の会員である管理職の地域、法人、分野を超えた交流の場とする

です。

受講生には初めてとなる、第 1 講座のプレゼンテーションテーマは「管理職としての私を語る」です。管理職としての役割は何か、自分の弱みや強みはどういったところか、そしてどんな管理職が求められるのかを語ります。多くの受講生が自主ゼミの中で伝えられた「プレゼンは目線できる」という本を参考にし、3 分という限られた時間の枠で、管理者は「調整力が必要」「仕事を振れない管理者は、組織の力も引き出せない」「管理者 1 人ではできない、主任と手をつなぎ、船を動かしていきたい」といった内容を語ってくれました。いずれのプレゼンも自分自身を掘り下げたうえで練り上げてきていることが窺われました。

午後からは、「福祉経営の管理に求められること～民主的経営管理試論～」というテーマで、明星大学名誉教授、社会福祉法人多摩福社会理事、社会福祉経営全国会議理事の垣内国光先生から講義をいただきました。ご自身の法人での経験もお話して下さいました。

まず、社会福祉の公益性や民主的経営についての問題提起があり、そのうえで管理者のあるべき姿が深められていきました。善意と情熱に頼らず、科学的根拠をもった組織が不可欠であり、そのために私たちは「クールヘッド&ウォームハート」で仕事をする必要性が強調されました。また管理監督者に必要な能力は何か…「組織のパフォーマンスを最大化する人」「自分の頭で考える人」「提案する人、揺り動かす人」「積極的に外に出る人、出す人」「仕事を振る人」「器量のある人(姿勢)」「後継者育成ができる人」という 7 点を挙げられました。

講義の最後には、尾崎新氏の『揺らぐことのできる力～ゆらぎと社会福祉実践』を紹介されつつ、「ミッションをもち、職員に誠実であれば揺らいでもいいんだよ」という先生からのメッセージは、受講生の胸に刺さ

り、今まさに揺らいでいる受講生にとっては自己肯定感を持つことができ、魅力的で力量ある管理者になるための基礎知識を学ぶことができました。

そして、講義後のグループワークでは、プレゼンテーションに関する互いの評価と垣内先生の講義を振り返り、管理職像について見識を深めることができました。

養成学校の幕開けにふさわしい充実した内容となりました。

第2講座「社会福祉法人の在り方を学ぶ」2024.10.24

第2講座のねらいは以下の通りです。

- ①社会福祉法人の歴史と、果たしてきた役割について再認識し、併せて今日的な課題に対峙する確信をもち、行動へとつなげる力を獲得する
- ②自法人の理念を自らの言葉で他者に伝える力を獲得する
- ③他者の課題を共有することを通じて、管理職としての問題意識をさらに深め、ひいては自らの抱える課題を別の角度から見直す機会とする
- ④他法人・他分野の管理職との実のある交流を深める契機とする

浜岡政好講師の体調不良により、全国会議会長茨木範宏氏に代役講師を務めて頂きました。受講生は、講座前に配布された茨木講師の資料「社会福祉法人制度『改革』の狙い～本物の福祉を取り戻すために」(2015.7 雑誌経済)を読み込み、「自主ゼミ」での意見交換を通じて情勢認識が深められ、そして、各ゼミでの論議内容や質問項目について事前にまとめた状況で第2講座当日を迎えています。

午前中はプレゼンテーション。第2講座のテーマは『「わが法人の経営理念」と「地域で果たす役割について」』です。事前準備として「法人のトップ或いはそれに近い方からお話をうかがう」ことをお願いしました。業務と学校生活の併用で多忙な受講生にとって、それぞれの法人理念を引き継いでいく立場を意識する貴重な時間となりました。そして、迎えたプレゼン本番、3分間で地域住民対象に法人を語り、地域で果たしている役割を説明する、というテーマで発表、「社会福祉法人〇〇の一員である自分」を意識して、そして1枚のパネルに伝えたい想いを詰め込み、自分の言葉で地域の方々へ伝える素晴らしいプレゼンテーションが展開されました。事前の自主ゼミ内での相互評価も当日のプレゼンの仕上がりにつながっているようです。茨木講師からは、今日のプレゼンを厚労省の人たちに見せたい。地域貢献をやっていないというなかで制度改革が進んだが、皆さんの法人は幅広く地域に寄り添い事業展開している！また、1960年代・70年代に法人を立ち上げた先輩たちの奮闘もよく伝わるプレゼンだった。法人の歴史、つまり原点を学んだが、そこに触れるなかで自分自身が福祉に向き合う姿勢や初心、つまり自分の原点にも向き合えたのでないか。素晴らしいプレゼンばかりだった！という評価でした。

午後は、茨木講師のゼミ方式の講義。「社会福祉法人の在り方を学ぶ。社会福祉法人とは～その強みを活かして」です。

◇社会福祉法人の経営は今どうなっているのか

半数以上が小規模法人であったり、その収益率減少や赤字法人数が年々増加してきていること、社会福祉法人の倒産も今後例外でないほど経営実態が苦しいこと…その背景には福祉経営が営利企業にとってはビ

ビジネスチャンスと捉えられ参入が増え、利潤の追求のために経費を削減して質の低い支援が提供されていること、儲からない事業に対しては撤退していくこと等。また、昨今の人材不足についてもそもそも賃金が低い問題や、人材産業に資金が流れている現状など明るい話題がありません。

◇グループワーク①「利用者にとっては社会福祉法人・営利企業の違いはあまり意識しないのでは。そんななか我々は違いをどう伝えていくのか。」

各グループから、人件費率が低い営利企業は非正規職員の割合が多く支援の質が低いのでは、また、我々は利用者を権利の主体として支援をしているという反面、営利企業は宣伝方法が上手。就職フェアでは株式会社のほうがイメージが良いという話もあり、社会福祉法人のことを地域住民に如何に知ってもらい共感を得ることができるのかが問われている、という課題が突き付けられました。

◇いま社会福祉法人に国や政策側から求められているのは

社会福祉法人が経営の効率化や安定化のために経営の協同化・大規模化が求められています。社会福祉連携推進法人制度がスタートし、課題点としては連携法人として営利企業なども参入できるなかビジネスチャンスとして利用されないか、それに対して、規模の大小に関係なく地域の福祉を守り、利用者・地域住民の権利を守るための「ゆたかな連携」が重要で、全国会議がまさに約 200 法人の組織で、全国最大規模の連携推進法人ではないかという茨木講師の心強い話が聞けました。

◇そもそも社会福祉法人とは何か、どんな性格を持つのか。そしてこの 30 年間で何が変わったのか

近代社会において、「社会福祉法人」が憲法 89 条との関係でどのような根拠を得て設立されたのか、茨木講師から大阪福祉事業財団の歴史にも触れながら解説されました。1950 年の「社会保障制度に関する勧告」を契機に、地域の福祉要求と革新市政のもと権利保障の担い手として社会福祉法人が次々と設立された時代から、1995 年「社会保障制度審議会勧告」で国の公的責任の縮小や放棄へと方向性が転換され、営利企業の参入、社会福祉法人へのバッシングから社会福祉法人制度改革へと向かってきた現状、社会福祉法人が準営利企業体と変容されてしまう歪みが生じている危機感について学びました。茨木講師は逆イコールフットィング、つまり我々が取り組んでいることを基点に、営利企業にこそ規制が必要ではと提起されました。

◇グループワーク②「社会福祉法人の強みって何だろう？それを活かすには？」

各グループから、昔からの地域との信頼関係が形成されていること。専門性を発揮して地域の福祉ニーズに制度にないことでも赤字覚悟でも応えていくこと等が強みとして報告されました。茨木講師から講義のまとめとして、我々は公的福祉の担い手として地域の福祉ニーズに応じて発展してきた存在である。今、法人を作り上げてきた世代から次の世代への移行時期であり、法人の歴史や先輩たちの福祉実践について学び、確信を持ち継承していくことが必要。社会福祉法人の強みを引き出し、活かすために自らの法人や事業所の経営力を高めること、そのために関係者すべてが参画できる経営力、地域の福祉要求を運動化・制度化する経営力、権利を守る社会福祉法人が地域で認知され福祉実践が実行できる取り組みが必要と激励の言葉で第 2 講座は締めくくられました。

第3講座「組織運営を学ぶ」 2024.11.21～22

第3講座は京都府与謝野町で1泊2日の行程で実施されます。養成学校のカリキュラムのうち、唯一、対面方式で実施されるプログラムであり、受講生が交流を深める上でも重要な機会となっています。

一日目は1泊研修の目玉である「異業種の経営者から学ぶ」が最初のプログラムでした。4年連続で(株)シオノ鑄工の塩野浩士氏です。まずは工場見学。危ないので外から見るだけでしたが、普段目につくことない鑄物の作業工程を目にしました。その後、新工場へ移動し、塩野社長の講義です。経営が行き詰った時に「経営理念」を社員と考え、工場で体調を崩す社員が増えたことをきっかけに給食を提供する等、社員第一の思いが満ち溢れています。社員との関係づくりの一環として「ヒロシの部屋」と称する飲み会・BBQ・釣り大会を実施するなど、斬新な発想でリーダーシップを発揮されています。又、「丹後地域を活性化させたい」という思いも強く持っておられ、塩野社長のような「社員思いの魅力的な管理者に私もなりたい」と思える講義でした。

午後からは場所を移動して「リフレかやの里」の加工場見学。主任や支援員、そして実際にそこで働いている仲間(利用者)の方に説明や思いを聞きながら見学をさせていただきました。障害のある人が当たり前働き・暮らしていくことを保障するために、私たちの仕事、社会福祉の役割があると改めて考えさせられる時間となりました。

その後は「かや山の家」へ移動し、最初は「ワークセンター花音」管理者の藤原さゆり氏の「働く中でたくましく ～原点に立ち返り大切にしたいこと～」というテーマの講義です。藤原氏の原点は学校卒業後に無認可作業所に入職したはじめての給料日です。仲間より給料が多かったことに疑問を感じたこと、それが「仲間に少しでも多くの給料を払えるようにすること」が自分の仕事である、と志し「仕事づくり」に邁進されてきました。入職した頃の想いを常に忘れずに実践し続け、仲間一人ひとりに寄り添い、夢や願いの実現の為にチャレンジしている姿勢に感銘を受けました。

そして、1日目の最終プログラム。プレゼンテーションは「組織運営」をテーマに、自分の職場の運営課題を明確にし、リーダーとして課題解決に向けての道筋を考えていきます。初めて対面でのプレゼンで、受講生の皆さんの緊張もより伝わってきましたが、様々な手法で自施設が抱えている運営課題をわかりやすく、切実に語る姿が印象的でした。

1日目の過程が終了後、ゼミメンバーと美味しいジビエカレーを頂きながら夕食交流会。修了式でのゼミ発表に向けての打ち合わせや受講生同士で情報交換、悩みを言い合ったりと貴重な時間を過ごせたのではないのでしょうか。宿泊先に分かれた後も夜遅くまで交流は続いていたようです。受講生同士の連帯がより深まり合う与謝野町での夜のひと時となりました。

2日目の研修会場は4つの法人が同一敷地建物内で協働して運営している施設『地域共生型福祉施設 やすらの里』で、第3講座のテーマである「組織運営を学ぶ」について、よさのうみ福祉会青木一博理事長の講義です。

「よさのうみ福祉会の福祉実践と法人組織運営」と題して、①リフレかやの里の再生・農福連携に取り組む、②異業種4法人と町が連携し共生型福祉施設を整備運営、の2つの実践例を柱にお話しいただきました。いずれの実践例もそこには地域のニーズがあり、ニーズを実践する法人理念があることは確かです。「よさのうみ福祉会だから、できたんだ！」で終わらせることなく、その実践を自法人自施設に引き寄せ振り返ることが大切です。受講生にとって深く学び、考え・実践につなぐことを再確認できた時間となりました。

受講生24名全員が学びと交流の機会を持つことが出来た意義のある2日間となり、それぞれの受講生が与謝野町という地域を通じて、自分の地域にどのように持ち帰るかを考えるきっかけになったと考えます。何より実際に顔を合わせての交流は受講生同士の絆を深め、学校終了後も途切れないような関係性が築ける機会となりました。今後の課題としては、2日間のタイトなスケジュールの中で目標を達成しつつ、少しでもゆとりをもって研修に取り組めるようにさらに行程検討(移動手段等)が必要です。

第4講座「財務分析と事業計画」2024.12.19

第4講座のねらいは…

①現場の実践と、財務の数値が結び付けられるきっかけにする

②自事業所の財務状況と経営課題を年間・中長期・月次管理の観点でつかめるようになる

③自法人の理念や管理者の意志を反映した事業計画と財務管理を結び付けられるようになるの3点です。財務の力をつけることと、第5講座の卒業発表(中長期事業計画)につながる講座です。事前に財務管理研修(基礎編・応用編)で基礎的な会計知識や財務の視点を学びます。また、財務計画を立てるために、職場でプロジェクトチームを組織し、SWOT分析、SWOTクロス分析をおこなった上でBSC(事業計画)を作成します。この分析、事業計画の作成を現場職員も含めたプロジェクトチームで行うことは、民主的運営に関わる大事な場面であると講師の山本先生は話されています。

当日のプレゼンは「職員会議で自事業所の財務分析を踏まえた上で財務計画を話し、共にすすめる職員の合意形成を図る」という設定です。自事業所の職員に伝わることを意識し、わかりやすく丁寧に様々な資料を使い報告されていました。イラストやグラフ、数字の根拠などこれまでのプレゼンの経験を積み上げてきていることがよくわかりました。普段は財務と関わりが少ない職員にもわかりやすく伝えるための工夫がされていたことを感じました。

山本先生からの講評では、現在と将来、プラス過去の歴史の時間軸があるプレゼンや、起承転結がしっかりありストーリーが見えるプレゼンを評価されていました。また、分かりやすいデザインの重要性、文字の大きさを变えるだけでも強調したい部分が伝わるといった手法についても助言を下さいました。今回のプレゼンでは制限時間の3分を超えてしまう受講生が多かったこともあってか「3分で十分伝わります」という山本先生のお話がとても印象に残りました。3分という短いプレゼンであっても、誰に何を伝えるのか、情報を取捨選択し、言葉を研ぎ澄ますことにより本質を伝えることができることを改めて学ぶことができたのではないのでしょうか。

講義では、SWOT分析、BSCの作成ポイントについて具体的に伝えて下さいました。「強みが本当に強みなのか？強みとは他者と比べて優位であること」「強みと弱みは紙一重(例えば経験豊富な職員⇔人件費が高い、若手が育たない等)であること」「人は宝(財)、人を強みととらえるなら強み。民間企業は人件費をコストと考えて安い方が良いと考える」など、受講生が作成したSWOT分析等を見直す視点を伝えてもらいました。

また、財務からみる民主的な運営についても触れて下さいました。これまでも「事業所改善への過程ではトップダウンでなくボトムアップが大切であること」「民主的な運営になることで、職員の主体性が発揮されること」と伝えて下さっていました。そこから更に「民主的な運営とは個人の権利、人権を守ることです」といった思いを話して下さいました。

最後はメイン企画である総合問題です。「A 保育園の道をひらけ！」と題し、ある架空法人の決算書の数値を見て、事業の問題点を見つけ、経営改善をグループワークで考えてもらいました。「こんな時期に転園する子どもがするのは何故？ちょっとおかしくないか」「遊具で園児が怪我をしたことと、転園児がでていることに関連はないのかな」「園長一人で事務や管理業務をまわすのは無理があるのではないか」「退職者が続いているのは、職場にパワハラがあるのでは？」など、数字を見て自由に気づいたことを出し合い現状分析を行いました。

後半は改善計画についてです。「事務員を置くことが必要！」「財務分析をしっかり行い、計画的に人材確保、修繕計画等を立てていくことがある」「入所児を増やしていくために、園の良いところを見直して、しっかりアピールしていくことが必要」など、様々な意見が出されました。この総合問題を通して、自事業所の財務状況を様々な視点からつかめるようになることと併せて、数字を見ることのおもしろさを知ることができました。

グループワーク後のふりかえりでは、A保育園の決算書の数字を追いながら、課題を見つける視点を具体的に示していただきました。日常業務で財務にどの程度関与しているかにかかわらず、現場の出来事と会計の数字を結びつけて考える実践は、今後に活かせる貴重な経験になりました。

第5講座「卒業発表・修了式」 2025.1.30

第5講座は3部構成になっています。これまでの受講生の学びの集大成として成果を観ていただくため、送り出して頂いた各法人の推薦者・サポーターの皆さまや講師の皆さまにも多数ご出席いただきました。

第1部：卒業発表

開校式から始まり、第1講座で「管理職の役割」、第2講座で「社会福祉法人の歴史と在り方」、第3講座で「組織運営」、第4講座で「財務管理」について学んできました。それらをふまえて、職場でプロジェクトチームを作り、SWOT分析・SWOTクロス分析・BSCを再考し、自法人・自施設の「中長期事業計画」を発表しました。時間がいつもの3分より長い5分でしたが、職場の仲間との話し合いやゼミ交流によるこの間の学びの蓄積で、チームを組織し、意見を引き出し、考えを表現し、意図を伝えながら語る姿に半年間の成長を感じました。

第2部：ゼミ発表

養成学校の特徴は、受講生が4つのクラスに編成されていることです。そしてクラスは自主的な研鑽を重ねる期待を込めて「ゼミ」として位置づけているのが最大の特徴です。このゼミが開校式前から自主ゼミという形でオンラインによってはじまります。この自主ゼミが講座と講座の間に複数回開催され、回を重ねるごとにゼミの仲間の絆が深まってきたのは言うまでもありません。講座の予習・復習はもちろん自身の悩みも含めて大いに交流し、お互いに励まし合いながら切磋琢磨してきたのではないのでしょうか。

ゼミ発表は、これまでの学びをゼミとして何をどう発表するかということで、ペープサートで表現したり、ゼミ名を背景にそれぞれが発言したり、寸劇を通して伝えたり、動画を作成して発表したりと各ゼミ創意工夫を凝らして「笑いあり、涙あり」の発表となりました。まさに「学びの共同体」を具現化したゼミ発表でした。

第3部:修了証書授与式

まずは担任がゼミの特徴を振り返り、一人ひとり名前を読み上げました。その後、全国会議茨木会長より、ゼミ代表であるリーダーに修了証書が授与されました(受講生には後日送付済)。茨木会長からは「この学校での学びは活かされてこそその学びになる」との式辞をいただき、浜岡校長からの式辞は動画でしたが、本校が大事にしている「共に学ぶ、楽しく学ぶ」に加えて「学んで時にこれを習う」と述べられました。「学んだことを活かすためには、学ぶことともに機会あるごとに習うこと、つまり復習することが重要で絶えず習うことが欠かせません」と強調されました。今後とも養成学校で出会った仲間とのつながりを大事にしながら習うことを意識し続けていくことで、ここでの学びが活かされてくるのだと思います。

最後に、第4期受講生24名が誰一人脱落することなく無事に修了できたことは、学校事務局にとっても誇らしく大きな喜びです。日常業務に加えて養成学校での奮闘に敬意を表すると共に、学校事務局におきましても新たな学びの多い第4期となったことに感謝いたします。

Ⅲ むすびにかえて

社会福祉経営全国会議が結成されてから、5年になろうとしています。管理職養成学校も第4期を終え、第5期に向けての準備を事務局ですでおこない始めています。

概観でも記述したように、管理職の養成・育成の課題は会員法人でも大きな課題となっています。また「社会福祉制度」を守っていく運動の主体となる管理職のつながりを大きくしていきたい、というねがいも切実です。

分野と地域を超えたつながりのある「社会福祉経営全国会議」で、より強い絆ができるのも管理職養成学校であると、第4期を終えて自負をしているところですが、より一層の学びの「内容の充実」を図っていきたいと思います。

今期をもってご勇退される浜岡校長には、社会福祉経営全国会議の前身である、社会福祉経営者同友会の管理職養成学校立ち上げ時から、第2講座の講師だけにとどまらず、学校運営に関して、たくさんのご意見を頂戴いたしました。また昨年度のディプロマポリシー策定に関してもご尽力いただき、事務局に全面的サポートをしていただき、感謝の念に堪えません。

そして、今期もご尽力いただいた講師の皆さま、養成学校を支えていただいた会員法人の皆さま、そして卒業生の皆様に感謝を申し上げます。今後ともお力添えをお願いしてむすびにかえさせていただきます。

ありがとうございました。

2.2024 年度 管理職養成学校 各講座ゼミ活動報告

A ゼミ 情熱大陸 $\infty\infty$ 自主ゼミ開催状況

(南中智行・梅津隆夫・池谷公余・中村裕美・菅野由美子・橋本賀永子)

全 19 回 実施

リーダーを中心に講座前の自主ゼミを運営。講座ごとにゼミ生がレジュメの準備、報告を行う

情熱大陸の名前の由来・・・

スコアシートを用いてメンバー各自の「粘り強さ」と「情熱」の度合いを判定したところ、メンバー全員の「情熱」が日本人の平均を越えていたこと、また、ゼミオリエンテーションで初めて顔合わせした日が8月8日だったことが、ゼミ名の由来です。8は ∞ （無限）にしました。

※88 → $\infty\infty$

第1回目から19回まで、ほぼ全員が参加し、講座に向けての取り組み状況の確認や課題に向けての互いの悩みや思いを語り合い、どの回も和やかに進めることができました。

プレゼンでの練習は何度も何度も各自が練習に励み、またゼミ生からの刺激を受けて、画面共有に始まりパワーポイントの活用も精度を上げることができました。

講座に向けて進捗状況の確認とともに講座の中わかりにくいこと、理解を深めたいことなど確認しあうことも取り組んでいます。

特に財務にかかわる資料の作成には苦慮しました。不得意分野ではあるが、いざ取り組んでみると意外に「楽しい」と感じるゼミ生もおり新たな発見にもつながっています。

それを踏まえて第4講座に向けてゼミ生だけでなく各事業所の中でも中長期の計画を共に考えるなど、参加している管理者だけでなくそれぞれの事業所を巻き込んで計画を分析する力も蓄えることができました。講座を重ねるごとにゼミ生のつながりは強くなっている実感を感じながら、担当の萩原さん、仁木さんからもその都度励ましもいただくことができました。

福知山で対面の講座に参加したことがゼミ発表へのまとめに近づけられたと思います。

私たちの今置かれている立場や、不足していること、どんな力が必要なのかを盛り込んだ内容になるよう工夫を凝らしました。

ゼミ生が途中、参加できないなどもありましたが、だからこそ同じゼミ生がその思いにも寄り添い、励まし励まされ最後まで講座にも挑んできました。

管理者養成学校では、学び、対話を重ねることで言葉の重みを感じ、管理者として発信することの意味や意識を高めることができたように感じています。

ゼミ発表に向けて、対面でどんな思いで取り組むのか、周りの他のクラスの様子も気になりながら、私たちのグループで取り組めることをしっかりと話し込みました。

また後半の自主ゼミでも zoom の画面越しでどう伝わるのかなど、何度も練習を重ね思いを伝えることができたと感じます。



Bゼミ (ブロッサム) 自主ゼミ実施報告 報告：社会福祉法人結い 黒田博美

月日	時間帯	内容	備考
9月5日	17:30-20:00	第1講座原稿進捗の共有、意見交換	
9月11日	17:30-20:00	第1講座プレゼンリハ	
10月2日	18:00-21:00	①第2講義事前学習 ②第2講座プレゼン進捗	
10月8日	18:00-21:00	①事前学習意見交換 ②第2講座プレゼン練習 ③発表練習	Recordingと意見要約
10月10日	18:00-21:00	第2講座プレゼン(発表練習)できる方は原稿なしで!	
10月17日	18:00-21:00	第2講座プレゼン道場	おかわり①
10月22日	18:00-21:00	第2講座プレゼン道場	おかわり②
10月31日	18:00-21:00	一泊研修に向けた事前学習(意見交換)	Recordingと意見要約
11月5日	18:00-21:00	事前学習意見交換/プレゼン進捗確認(リハできる方はリハを)	Recordingと意見要約
11月14日	18:00-21:00	第3講座プレゼンリハ	
11月18日	18:00-21:00	第3講座プレゼンリハ	プレゼン用聴衆でリアルに
11月26日	18:00-21:00	①タスク確認 ②進捗共有、③SWOT、SWOTクロス、BSC	
12月9日	18:00-21:00	①課題進捗 ②ゼミ発表について	長時間化傾向
12月16日	18:00-21:00	①労い ②プレゼンリハ	長時間化傾向
12月17日	18:00-21:00	第4講座プレゼン道場	おかわり③
1月6日	18:00-21:00	①ゼミ発表検討、②第5講座プレゼン進捗の共有	
1月17日	18:00-21:30	①ゼミ発表リハ、②第5講座(中期計画と必要な視点について)	長時間化傾向
1月23日	18:00-22:00	①ゼミ発表リハ、②第5講座プレゼン(リハできる人はリハ)	長時間化傾向
1月27日	19:00-22:00	①ゼミ発表リハ、②第5講座プレゼン(リハできる人はリハ)	長時間化傾向
1月30日	11:30-12:00	ゼミ発表リハ(全員そろってリハーサル)	おかわり④

～管理職養成学校を終えて～

Bゼミ「ブロッサム」の由来は学びの開花。さて、ゼミメンバーの開花させた学びとは!?

氏名	所属	私が開花させたもの
内藤 拓史	天白福祉会 あおぞら保育園	この管理職養成学校を受けて物心つきました。「事務局どう?」と前任者から声を掛けられは5年たち、なんとなく運営できてきました。でも運営しているうちに薄っすら壁を感じてきました。この壁が何なのか、超えられるものなのか分かりたくて受けた研修でした。講座やゼミに参加するうちに、その壁は端的に経営に携わる職員としての自覚だと思いました。今回でその一端を認識できたことが、これからは自分の行動に大きく関わっていくと思います。あとゼミの皆を見ていて、パッションの重要性も身に沁みました。
黒田 博美	結い ワークハウス・わくわく!	ゼミが始まって以来、私は「とりあえず話し出す係」を担当。沈黙?ならば発火!火が消えそう?燃料投下!そんな調子で語り合い、気づけばゼミの時間はじわじわ延長…いや、成長?(たぶん成長!)語り合うことで考えは深まり、「一人じゃない」からこそ、クールヘッドで自分の課題を見つめ、ウォームハートで前向きに受け止めることができた。ブロッサムは 自己省察の力が開花した(5分咲き) ゼミだった!✿
仲村 粉雪	大阪あゆみ福祉会 あゆみ東保育園	「管理職としての意識が芽生えた」自分が管理職なんだと意識したことが全くないまま管理職養成学校に参加し、自分の意識の無さや何も考えていないことに気づかされた。講座が進むにつれ、自法人の運営は黒字?修繕積立は…、中長期計画は…、職員を育てていく為には…、と課題が山盛りあることが分かった。人手不足の中、日々の忙しさの中で職員に対して冷静ではいられず、責めるようになってしまう事もあり、まだまだ冷静に対応できない自分に反省しつつ、そういう意識を忘れず、職員としっかりコミュニケーションを取り、話やすい管理職になる!!
古賀 華子	たんぼ福祉会 つくし保育園	仕事で手一杯なのに課題に追われ、休みのON/OFFがわからなくなりしんどくなったこともありましたが、自法人の歴史や自施設のSWOT分析など受講していなければ学べなかったことを学べ、この歳でも私はまだまだ学びたい!と楽しさ・喜びを感じました。そう思えたのも自主ゼミがあったからこそ。ブロッサムは全国に仲間がいるという勇気になり、これからは私の支えです。
西山 美乃	はとのさと福祉会 はとのさと保育園	受講するまでは、園長の役割として目の前の業務だけでなく地域や法人の中で何があるのだろうか?ビジョンって何をビジョンにすればいいのだろうか?と感じていたことが、皆さんと話をしたり、学習し、担任の先生にアドバイスをいただく中で少し見えてきた事と、覚悟を持つために自分自身が納得すること、人を変える前に自分が変わることが必要だということなどの気づきで以前より少し目の前が明るくなりました。
中村 由起	どんぐり福祉会 久宝寺保育園	「やる気!プラス思考!」だけで走り切った半年。そして、ゼミの仲間、担任の先生の存在があって、卒業を迎えることができました。やり切ったことが1つの自信になりました。

Special Thanks to 伊藤先生 & 西田先生 ✿

Cゼミ(C+ピースナッツ★)報告

★メンバー★

東 麻梨江(麦の芽福祉会)、松田 しよ(さつき福祉会)、梶村 智美(名北福祉会)
田中 順子(西成若草会)、山田 啓子(静岡福祉会)、中本 琢也(多摩福祉会)

★担任★

寺田 恒、五島 清子



★ゼミ名の由来★

メンバーがそれぞれ案を持ち寄り、「C」から連想される「しー⇒星⇒スター」という案や、個性が豊かなミックスナッツ、平和⇒ピースなどなどが出ました。

たくさん話した末、どの案も捨てがたく、すべてを合体する形で「C+ピースナッツ★」に決定！！Cゼミは個性の塊なので、その個性を凝縮した形のゼミ名になりました☆

★自主ゼミ活動日★

8/21、9/11、9/17、10/2、10/17、10/21、10/24、10/29、11/6、11/13、11/18、12/6、
12/10、12/12、12/18、12/26、1/8、1/16、1/22、1/29、1/30

★自主ゼミ内容★

毎回、次回の講座に向けた課題に関する討議やフレゼン練習を中心に行ってきました。各自フレゼンを実施して、意見交換し自分だけでは考えきれなかったことを発見しつつ、時に率直な意見にへこむことがあったり、直前に内容を大幅に変えたいと荒波に直面しながらも、それぞれがしっかり乗り越えてきました。課題関連以外にも、各施設の様子や分野別の課題の共有をし、課題以外の学びも深めて、改めて福祉の置かれている立場を理解し運動の大切さを感じました。

真剣な討議も大切ですが、交流や楽しい予定の話も盛り上がりました。対面での第3講座の前泊に向けた話や、ゼミ発表に向けたアイデアの出し合いは特に話に花が咲きました。

☆卒業の一言☆

日々の業務のバタバタの中に、養成学校の毎回の課題内容とその量にみんな「まずい終わってない！」「大変！！」「財政わからん！！」と言っていました。みんなが置かれた立場が同じで、この航海を協力しながら乗り越えてきました。間違いなく個人ではここまでの学びはできませんでした。Cゼミメンバーがいて、担任の2人がいて、そして4期生みんながいて、ここまで来られました。



みなさんとたくさん話す中で、管理職としての役割を学ぶことができたが、見通しの大切さ、財務管理、地域の中で果たす役割、社会福祉とは…まだまだ学び深めながら取り組む課題はたくさんです。それも一人で取り組むわけではなく、職場の仲間とともに、そしてここで出会えた全国の仲間との絆を糧に、これからも頑張っていきたいと思います！！

2024年度 管理職養成学校 Dゼミ『TEAM 未来』 活動報告

【メンバー紹介】

河村 聡子（あおぞら） 飛松 美美子（コスモス）
崎岡 晴美（新瑞福祉会） 鶴谷 美奈（宮城厚生福祉会）
川崎 和也（かわち野福祉会） 古跡 健二（はとのさと福祉会）

【ゼミ担任】

吉川 継史（愛児福祉会） 関口 奈緒美（ふたかみ福祉会）



【ゼミ名が決まるまで】

保育園、障害者福祉、高齢者福祉をメイン事業として働く我々は、熱い思いを持ってる人見知りたちでした。リーダーの「ちょっと、黙らんとしゃべってこ！」と言う熱い檄と、「か●か●レモン」話から心がほぐれ、お世辞言わない飾らないゼミを展開していく集団になったと思います。

活動は、開校式前から始まり、ヒトミシリーズな我々ですが、いつも「えいやっ！」と誰かが動き出し、その渦に巻き込まれ愛♥ながら、進んでいました。ゼミ名も連想ゲームをヒントに始まりましたが、養成学校で終わらない未来へ続く、素敵なネーミングです。

【ゼミ活動報告】

- ① 8月2日（金）初顔合わせ、リーダー決め、LINE グループ作成
- ② 8月16日（金）ゼミ名決定、開校式第2部発表打ち合わせ
- ③ 9月6日（金）午前・午後の部 ④ 9月17日（火）プレゼン練習
- ⑤ 9月27日（金）第2講座 事前学習 ⑥ 10月10日（木）プレゼン練習
- ⑦ 11月11日（月）プレゼン練習、ゼミ発表に向けて
- ⑧ 12月9日（月） ⑨ 12月16日（月） ⑩ 12月17日（火）プレゼン練習
- ⑪ 12月28日（土） ⑫ 1月7日（火）ゼミ発表打ち合わせ
- ⑬ 1月17日（金） ⑭ 1月24日（金）ゼミ発表打ち合わせ、プレゼン練習
- ⑮ 1月28日（火） ⑯ 1月30日（木）ゼミ発表打ち合わせ、プレゼン練習

講座が進むと課題の内容も高度になっていったので、出られる人だけでもやろう！と細かく開催して、足りない視点とアイデア出しが続き、頭の整理もできました。課題の成果を確認するというより、事業のこと、実践のこと、福祉への思いを語り合う時間になっていったんだと思います。

【ゼミのみんなへ】

- * 空と海と水平線の先にある未来を、これからも見つめ続けて、追いかけていきます。つまり、皆さんをずっと思い、追いかけるから、見える場所にいてね、居続けたい。（飛松）
- * 歓声と拍手の中に誰かの悲鳴が隠れてる。そんな悲鳴に気がついて手を差し伸べることができる“未来”のメンバーだと思います。福祉でつながったみんなでも誰もが手を差し伸べる事のできる“未来”作りたいなあ。（古跡）
- * みんなとのつながりが、これから先も私の心の支え、力となる♪と励みに思ってます。感謝！（河村）
- * ゼミのみんながいてくれたから、課題やプレゼンを乗り越えることができました。この出会いと学びは私にとって宝物です。ありがとう！（鶴谷）
- * 皆さんに出会えて、繋がれたことがとても嬉しいです。私にとって、みなさんとの出会いが宝物であり財産です。未来へ。（崎岡）
- * Thank you for meeting me. We will always be together.（川崎）

3. 第4期管理職養成学校受講生感想文(全課程)

■アンケートの質問項目

1. 管理職養成学校を受講した理由
2. 受講前の時点で自覚していた自らの課題
3. 2を含め、受講期間を通じて、自ら変容(成長)できたこと
4. 受講期間中、特に印象的だったこと
5. その他 ex.)受講を検討している方に伝えておきたいこと

【ゼミ名】

情熱大陸∞∞

大阪あゆみ福祉会 あゆみ保育園 南中 智行

自分は管理職と思ったことがなく園の次世代育成計画として受講。

京都で、よさのうみ福祉会やシオノ鑄工の取り組みを現地で、塩野社長・青木先生の話をお聴きしたことで地域との結びつき・職員関係作り・利用者にとって何が利益となるのかを学べ、強みも弱みも明確にしながら自法人だけでなく社会福祉法人としての地域での役割も含めて大きな視点で物事を知り行動に移していくにはどうすれば良いかを沢山考えた時間でした。

今の自分が置かれている立場や、何を大切に今後の経営を考えるのかなど、全ての講義はもちろん、自主ゼミでの活動を通して感じられたことが自身の成長だと思います。

1 講義ごとの目的が明確にだされており、難しさもあり、気持ちが負けてしまいそうになりますが、最後には1つずつの積み重ねが大事なんだと感じさせてもらえる半年間でした。

やまがた市民福祉会 特養ホームとかみ共生苑 梅津 隆夫

管理職として4年が経ちましたが、これまで社会福祉法人の経営や管理職の役割を体系的に学ぶ機会がなく、財務管理の知識や経験の不足を感じていました。そこで、財務管理を含め管理職として必要な知識と能力を習得することを目標に管理職養成学校の受講を希望しました。実際の数字を用いて経営を分析することで、自法人の経営状況を理解する一歩となりました。また、SWOT分析で身につけた課題整理能力は今後の仕事に活かしていきます。時間内に発表するプレゼンを何度も経験し、伝えるべきことを焦点化する力も向上しました。航海日誌や自主ゼミを通じて仲間の努力を知り、互いに励まし合うことで学ぶ力が高まりました。受講中に手術・入院しましたが、仲間との交流がなければ途中で諦めていたと思います。全国に同じ志の仲間がいて、一緒に学んでいると感じた半年間でした。皆で悩み、学び、力をつけられたこと、社会福祉法人の役割を再認識できたことが、他の研修とは異なる管理職養成学校の大きな魅力だと思います。

たんぽぽ会 はらっぱ保育園 池谷 公余

法人内での「順番」に則り受講を始めた。「管理職」としての役割は何か、自分は何をすべきか、何ができるのかと園長になり考えることが多く、前園長の言葉を聞き自身の「園長」に対する向き合い方、考えを思い描いてきた。養成学校での学びの中で自身の考えに自信もてる部分とまだまだ不十分という部分、そういうことかと発見できた部分と様々だった。管理職は明確なビジョンをもち進めていくが、押し付けではなく、職員や利用者(保護者や園児)を守る為であり共に考え実践していくことの大切さを実感した。業務の優先順位をつけていく、整理していく、職員や保護者の声を聞く姿勢をもつ等「やるべきこと」としてぼんやりと思い描いていたことが明確になったように思う。毎回のプレゼンをこなしてきたことで、会議や研修の場で「自分の意見をまとめて伝える」と意識することができたことは、自分としても「成果あり!」と思っている。

苦しみも過ぎてみれば「プラスになった!」と感じている。プラスになったと感じる大きな要因とすると、やはり「仲間」の存在が大きい。対面での研修が一番印象に残ったことであり、大きな学びの場となった。ゼミ仲間の励ましの言葉や悩みを共有できることで「一人ではない」を実感し、「全国に仲間がいる」という思いが「根拠のない(?)自信」となった。「苦しい・つらい」思いは一人で抱え込まない。発信することで「苦しい、助けて」という声には応えてくれる仲間がいる。管理職が「助けて」と言えるから、職員も「助けて」と言える環境になる。「何事もチャレンジ、一人ではない、チャレンジに背を向けない」常にポジティブ精神&柔軟に!

名古屋キリスト教社会館 菜の花保育園 中村 裕美

管理職養成学校を受講した理由は、今まで、法人の中から、発達センター一部と支援部から出ているので、今度は、コミュニティ部の保育園からということで自分が出ていくことになりました。「大変だよー」と聞いていたので、できれば受けたくない気持ちでいっぱいでした。副園長になって3年。子育て支援の役割と園長の仕事の応援をするだけで精一杯で、管理職とは? 地域福祉とは? 深く考えもせず、また財務については事務の方に任せてしまっていることも多く、まったくの無知でした。当初のモチベーションも30%でしたが、この養成学校で、いろいろなことを考える機会を与えていただいたことにとっても感謝しています。まだまだ不十分で学びの継続ですが、法人の歴史を振り返り、基本方針に触れ、自分たちのやるべきことについて、いくつも考え、学ぶことができました。プレゼンの中で、パワーポイントの作り方も覚えることができました。

また、職員とともに法人の強み弱みについても書いてもらい、意識化できたこと、理事長や園長たちとともに財務や中長期計画について話し合えたことが良かったと思います。そして、やはりゼミのみんなに出会えたことが自分の一番の財産になったと思います。全国に同じ思いを持った仲間がいる確信が、次への力になります。支えていただきありがとうございました。

大阪福祉事業財団 すみれ乳児院 菅野 由美子

管理者としての視点や考え方、リーダーシップなど不足していることを見つけ、新たな力を学び取ることが目的であったかと思います。それと同時に業種を超えた「社会福祉」の考え方を学ぶ学校であることも受講

の理由です。「やってみよう」「できるかも」という思いとは裏腹に課題の難解さに何度も心が折れました。学ぶということは思っている以上に努力が必要でまた、職場の仲間を支えてもらうことで最後までたどり着いたかと思えます。自分の足りないところは努力・学習意欲・行動力です。しかし時間に追われながらも参考文献を読み、法人の歴史についても改めて読み解き、自分の力で自分の大好きなこの仕事を語ることができたということが大きな変化だと思えます。自施設にいれば施設長としての責務を負う重圧を、この学校ではゼミ生という仲間とその思いを共有できたことは何物にも代えがたい収穫です。仲間を支えられることの意味をより実感できた学校でした。支え支えられる関係性の中で職員集団は成長することを確信し、新たな課題へ歩みを進めていきたいと考えます。

虹の子会 川西共同保育園 橋本 賀永子

この養成学校は昨年度、主任(現 園長)が初めて参加したのがはじまりでした。SWOT 分析などのメンバーに入り考えたり、かなりハードな研修のイメージをもったのを覚えています。次は私に・・・と声がかかり、出来るのだろうかとも思いましたが、やるからには頑張ろう！と決意はしたものの、1回目の養成学校で「地獄へようこそ」と言われたことで「なんかとんでもない所におくことになってしまった！」と決意が揺らぐ思いでした。これまで保育や運動には長く携わってきていますが、「社会福祉法人としての自分」や「法人運営」という観点で保育園を見る力が欠けていると感じていました。この機会に学べたらという思いで航海がはじまり、はじめは「解っていないかったな」と思うことも多く、この養成学校を重ねていくうちに自分が物事を考える時の立ち位置(視点)が定まってきたように感じています。社会福祉としての法人、保育園のあり方や運営などの視点をしっかりとってこれからの法人や保育の運営に携わっていきたいと思います。

今回の養成学校のゼミの仲間(担任も含め)の存在が、回を増すごとに身近な必要な存在となり、短期間の間に心の支えにもなる大きな存在となったことに驚きを感じています。

是非、これからの受講生の方にも仲間の存在を感じながら航海に挑んでもらいたいと思います。

【ゼミ名】

ブロッサム

天白福祉会 あおぞら保育園 内藤 拓史

前任者から声をかけられ、特に何も考えず引き受けました。訳も分からず見様見真似で5年ほど経ち、「思ってたんと違う」と思い始め、事務局としての行き詰まりを感じていました。

3園の事務担当という当初イメージと違い、色々専門的な業務が盛りだくさんでした。

「このままでは法人経営に悪影響を与えてしまう」という危機感の中、藁をもつかむ思いで受講したのが養成学校でした。

すでに受講された方からは、大変だというような感想をきいていたので、内心ドキドキしていました。実際課題に向き合うのは大変でしたが、ゼミの仲間や担任の先生が相談に乗ってくれ、とても心強かったですし、ゼミの仲間からは大きな刺激をもらいました。

半年の受講を通じて、知識や心構えは学べましたし、これからも積極的に学んでいこうと思いましたが、一方自分に足りないと思ったことは情熱です。

ここをどうしよう?と思いますが、とりあえずコツコツ行こうと思います。

結い ワークハウス・わくわく! 黒田 博美

管理職養成学校の受講は業務命令に近い形で決まりましたが、管理職としての基礎を学ぶ機会がほしいと考えていました。特に財務の知識や「人を動かす語り」には関心があり、受講を決意しました。

受講前の課題として、財務の知識不足や意思決定の迷いを自覚していました。受講を通じて、数値を根拠に考える習慣が身につく、より論理的に判断できるようになったと感じています。また、ゼミ活動ではリーダーを務め、議論の進行やオンラインの環境整備などを担当しました。大変な負担はありましたが、メンバーの支えにより乗り越えることができました。

特に印象的だったのは、オンラインでも対面と変わらぬ信頼関係が築けたことです。ゼミでは弱音を吐くこともでき、それが半年間の支えになりました。受講を迷っている方には、「誰も独りぼっちにしない空気がある」と伝えたいです。大変ではありますが、その分得られるものが大きい学びの場でした。

あゆみ福祉会 あゆみ東保育園 仲村 粉雪

管理者養成学校を受講した理由はいずれ管理者になる事を踏まえ、行っておいた方が良いのかなと思いをかけられるままに受講しました。

法人の中で主任は管理職ではないような立ち位置で、自分として管理職とっていなかったのが課題も何も考えたことはなかったです。今回参加する事で管理職という立場と仕事が少しわかってきたように思います。法人としての管理職体制をどうしていくかももっと考えていかなければいけないのではとも思いました。この忙しさを見て園長・主任になろうとは誰も思わないのではとも思いました。

法人から管理者養成学校を受講するのが初めてで、どんな学校なのか検討もつかない中送られたが、送り出す法人側のサポートが必要だと思った。送り出すのが初めてで分からないのは分かるがしんどすぎる、運動会・発表会・その他細々した行事、勤務体制、給与、第三者評価、監査等業務が多すぎてまわらない、半年間ずっと追い詰められた感でいっぱいだった。クールヘッドウォームハートと頭ではわかっているが特に同年代の職員に優しくできない事が多かった。もっと考えて…、それぐらい分かって…と思ってしまう。終わって通常業務だけになるとあれだけしんどいと思っていたことも楽に思えてきています。

終わってホッとすると同時に今後の事をしっかり考えていきたいと思っています。

たんぽぽ福祉会 つくし保育園 古賀 華子

私は、園長から「やってみる？でも、吐きそうになるよ」という言葉にたじろぎながらも、財務や管理職としての役割ということが何ひとつわかっていなかったので学びたいと思い受講を決めました。

毎回プレゼン課題が出され、そのたびに資料を読み、よくわからないことばかりでしたが自主ゼミの中で色々な意見や疑問を交わし、わからなかったことがかみ砕かれ自分のなかに落ち、プレゼンに反映できるようになったと思います。課題に取り組む中で、自分に向き合うことがつらかったり、忙しさに課題から逃げたくなったりしましたが、同じゼミ生のおかげで向き合うことができました。各講義では、さらに学びが深まり次につながっていることを実感できました。

私は最初、「なぜプレゼンなのか？企業みたいなこと」と思っていたのですが、プレゼンのなかにどれだけの思いを込められるか、それが「人の心を動かすこと」ということにつながるのだと感じました。一人では何もできないが、人の心を動かし仲間・つながりを広げることが管理職の役割であると思いました。

はとのさと福祉会 はとのさと保育園 西山 美乃

1. 自分自身が現場での経験が長く、情勢のことや財務の理解に欠けている為、法人の会議などでも自分の考えを持つことが難しく園長としての業務に大変不安を感じていた事と管理者養成学校の卒業生の方から、「どの研修よりも受講してよかった。サポートするよ！」勧められたこともあり受講することを決めました。
2. 園長になり2年目を迎える中で、目の前の業務に追われる毎日で法人会議などの今後の法人の運営方針や自分の園のビジョンなどと問われても全くどう考えてよいものかわからない状態でした。
また財政に関しても事務の担当者に逆に教えていただきながら行っているなどが現状だった。
3. 社会福祉を学べたことが大きく自分が理解しきれていなかったことに気付きました。そのことから以前よりは少し視野が広がったと思います。法人運営に関しても様々な疑問や不満を持っていますが、この学校で学ぶ中で自分が理解できていなかったことにも気づき、自分が変わることが何より優先されると学びました。
4. 与謝の海での研修は、仲間とつながる楽しさをまさしく体験できました。この年でこのような経験をさせていただきとても印象的でした。また、自分が育った町に人が集うことを夢見る社長の話も素敵でここに残っています。
5. 不安もいっぱいあると思いますが、目の前の課題に向き合うことで自然に学習の連鎖が始まり、学ぶことができますよ！ぜひ受講してください。と伝えたいです。

どんぐり福祉会 久宝寺保育園 中村 由起

副園長が管理職養成学校を受けていたので、大変だという印象がありましたが、学べることへの期待がありました。自らの課題は、保育園の財務や運営、管理職という初めての分野に対して深く知ることです。

た。

自主ゼミは次の講座までに多い時は4回、毎回3～4時間という長丁場。しかし、いろいろな意見を聞くことができ学びが多かったです。1 番心に残っている事は、垣内先生の「ミッションと職員に誠実であれば、管理職も揺らいでもいい」という言葉です。また、社会福祉法人としての役割や「管理職とは」ということ学び、法人の歴史や今までの管理職の方々の想いを知る事ができました。同時に覚悟を持つこともできました。プレゼンに向けて、毎回諦めずに精一杯やりきることができ、粘り強く向き合う自分への自信にも繋がりました。半年間の航海を乗り越えられたのは、ゼミの仲間と担任の先生のおかげです。この出会いに感謝したいと思います。

【ゼミ名】

C+ピースナッツ★

多摩福祉会 練馬区立向山保育園 中本 琢也

園長になり2年目を迎え、保育園を運営するための力があるのか、そもそも管理職として何が必要なのかを学びたいと思い受講を希望しました。受講前の自分は保育現場が大好きで、事務室にいることよりも子どもたちとたくさん関わる一方で、広く保育園運営を見ていくことや財務関係はそれほど注力していませんでした。

養成学校を通して管理職とは、社会福祉とは、地域での役割といったことを学び、視野が広がったことは私にとって大きな成長です。特に地域との結びつきに関しは今まで以上に園内の話の中でポイントに挙げてみんなで話すようになり、事業計画に活かすことができました。

様々な課題や置かれた現実を見直す中で、大変に感じることもありましたが、ゼミのみんなと課題のことも、現状も話す中で常に前を向き進むことができました。自ら考え語り、意見を交わし合う事がとても心地よく豊かな学びになりました。まだ足りないことも多いですが、今回であえた皆さんと一緒にこれからも社会のためにがんばっていきたいと思います。

麦の芽福祉会 なかまの夢工房/すばる 東 麻梨江

1. 管理職養成学校を受講した理由としては、法人より選出してもらいました。
2. 受講前の時点で自覚していた課題は、人に伝えることの苦手さがありましたのでプレゼンテーションの時間があることを知り、大変憂鬱でした。
3. 受講期間を通じて、自らの変容は、財政の講座ではどこまで理解できるか…。と心配になっていましたが講座での学びから、施設全体の財政や全体像を把握して分析することの面白さを感じました。
4. 受講期間中、特に印象的だったことは、さまざまな分野の皆さんと語りあうことで各法人の歴史。そして、皆さんの普段のまなざしに触れ、あり方・やり方を学ぶことができ、感慨深い時間を過ごす事ができました。

日常に追われてしまうと、目の前のことに考えが固執してしまいがちな自分の思考を拓ける機会となりました。また、第3講座の現地での研修はワクワク感と、皆さんの前でプレゼンの緊張感は言葉では言い表せない貴重な体験となりました。

さつき福祉会 第2 さつき障害者作業所 松田 しよ

管理者として4年目を迎えたタイミングで、法人からの勧めがあり、この管理者学校に入学する事になりました。それまでは、現場からのたたき上げのみで、日々の業務におわれていたので、管理者としての経営知識や社会福祉法人としての社会的役割など、管理者として勉強不足の点がたくさんありました。学校で、苦手な財務管理の事、数字的な根拠をもとに事業所の展望を描いていく事、とてもいい勉強になりました。これまで、色々な研修に参加してきましたが、ここまで大変で、ここまで学びに繋がった研修はなかったと思います。5講座あったすべてが印象深いものでした。中でも一番の財産はゼミのなかまと共に学び合った繋がりです。出される課題はこれまでの知識不足から毎回頭を抱える事ばかりでしたが、ゼミのなかまが頑張ってるから私もやらなきゃな！と励まされ、乗り越える事ができました。一泊二日でお世話になった「かや山の家」では、地ビールと食事が最高においしく、仕事という事を忘れて、完全にリフレッシュさせてもらいました。プレゼンの緊張感、課題作成、グループワーク、と大変な研修ではありますが、終わった後の充実感と得るものは大きかったなと感じています。是非、がんばってください。

名北福祉会 めだか保育園 梶村 智美

航海を終え、次の航海に出発です

養成学校…終わってみると、達成感でいっぱいです。受講は理事からの勧めで、歴代の方々が「大変だけどやりがいがあるよ」とおっしゃったことが、園長5年目で「もう一步踏み出したい」と私の背中を押してくれました。コロナ禍が明け、職員も力をつけてきた頃で、今後は法人理念を自分事として捉え、『地域に根差す』ことを、行動に移していく時期(課題)だと考えました。その為、養成学校での学びやプレゼンを職員に、「みんなが地域づくりの一員だから、一緒に考えていこう…」と発信してきました。そんな中、職員は地域への“あいさつ”をより意識するようになり、私も地域の方に声をかけて立ち話することが以前より増え自分なりに成長を感じています。地域のニーズも聞きながら、『バザー』は早いうちに実施したいです。

受講中は、緊張と緩和の連続でしたが、C+ピースナッツ★の団結力は強く、初めて“よさのうみ”の前泊で会うことができ、幼馴染に会ったような気持ちで過ごした2日間、そしてよさのうみの青木さんの素晴らしいお人柄が強く印象に残りました。法人の施設長会でも養成学校の魅力を発信してきたので、私も「大変だけどやりがいがあるよ」と次の人の背中を押してあげたいと思います。養成学校は、今の自分との闘いだったと思っていますが、ゼミや法人の理事、職員からアドバイスや励ましをもらい一人ではなかった…と感じ前向きになれた自分があります。ありがとうございました。

西成若草会 どんぐり保育園 田中 順子

今年より管理職となりとはいえ、管理職とは？という根幹のところから分からず悩んでいたなら園長先生に勧められて参加させていただきました。日頃より保育の中でも、なかなか保育士集団作りを、どうしていくのか？また、どうすれば思いを共感できるのか、悩んでいたのも、良い機会になったと思います。

ただ、忙しさに取り紛れてちゃんとやりきったかと言われると、そこには自信がありません。せっかくの機会なのに、それは申し訳ないしい自分の不甲斐なさを感じます。

いちばん良かったのは、今回の研修でたくさんの素敵な出会いがあったこと。

良い先輩に恵まれてとても勉強になりました。この出会いを大切にこれからもぜひ繋がって行きたいと思います。

法人の先生にも、ぜひ管理職研修を受けて頂いて繋げて行きたいと感じました。

静岡福祉会 こぐま保育園 山田 啓子

受講した理由は、法人からの推薦で、自分にやり遂げることができるのだろうかという不安いっぱい申し込みをしました。

今年度から法人事務長になり、積極的にいろいろ提案して業務をやっていかなければいけません。視野が狭いし、知識も全然足りておらず、引き続き学習の必要性を感じています。

大変な思いで、こぐま保育園を開園したという当時の保護者の思いや法人の歴史を学び、次の世代に伝えながら、これからも地域や保護者のニーズにどのようにしたら応えられるかを財政面と合わせて考えていこうと思います。

毎回プレゼンの設定があったことから、会議の時などは、だれに何を伝えるのか、どうしたら伝わるのかをより、考えるようになりました。

管理職も誠実であれば、ゆらいでもいいのだよということばが特に印象に残っています。

受講している間は、課題に追われ、常に養成学校のことが頭のなかにあり、苦しい毎日でしたが、ゼミの仲間や担任に支えていただき、課題と向き合い、やり遂げることができました。仲間もいるし、大丈夫です。

【ゼミ名】

未来

かわち野福祉会 ケアハウスかわち野里 川崎 和也

まず、無事に修了式を迎えられ正直ほっとしている。その原因は、タイムスケジュールの調整、課題の多さや難しさなどである。少し甘く見ていた自分がいた。

この講座を受講するきっかけは、法人事務局長(直属の上司)の一言、「勉強になるから受講しないか？」だったと思う。何も考えず二つ返事でOKした。今までも、進められた研修は全て二つ返事でこなしてきたか

ら今回も同様、特別何も考えず受講する事にした。もちろん受講するにあたり、楽しみも大きくあった。苦手な財務や組織の運営など勉強できるから。

私は、介護主任という立場から施設長になった。今まで見てきた、感じてきた環境とは全く違う景色で財務や組織の運営など全くの素人。周りの諸先輩達にもついていけず毎日がモヤモヤしていた。そんな時期に始まった養成学校、この受講で苦手な部分を克服出来たらと思った。結局、出来たかどうかは微妙。

この養成学校を通じて印象的というか感じた事は、講座は勿論大事だったが、何より仲間の大事さだと感じた。相談できる環境や、一緒に悩める事など。職場がこんなゼミで構成されていれば、どんな事も乗り越えられる気がした。そんな事が思える学校でした。

半年間、ありがとうございました。

コスモス コスモスケアホームせんぼく 飛松 芙美子

当法人は、受講済先輩が多く、不安なく、根拠をもった事業運営への学びを深める絶好のチャンスと思い臨めた。私は視野が狭く、経験値で動いていること、経営の色々な視点を並行して進めていくことに焦ったり、混乱したりしていることが多い。根拠をもった事業運営ができているかどうか不安だった。養成学校の毎回のプレゼンは、自分と自分の事業に向き合うプログラムで、管理職としての自分、地域、財務の観点からの事業を見つめ、この先をみんなと思い描く流れだった。

私はこの半年で、成長できたと感じているが、それは、自分の考えを人に聞いてもらう機会が必然的に増え、話すことで「大丈夫、私のまわりのみんなは、概ね同じ方向向いている」と安心できて、さらに話していくことが怖くなくなったことと、一人業務しない重要性を確認できたことである。受講を通して、ゼミやPJで取組むテンポを考え、取り繕う伝え方は、案外伝わらないことも体感した。航海日誌は読んでもらってコメント返してもらうことが嬉しかった。これから続く受講生には、自分に向き合い、周りが愛おしく思える機会になると伝えたい。

あおぞら あおぞら第2保育園 河村 聡子

法人理事にすすめられて申込をした4月。日々の業務と養成学校の課題を両立ができるかという心配と、学ぶことで将来的に園長職につく不安を少しでも解消したいという思いが交錯する中、8月の開校式を迎えました。

課題への取り組み過程で『伝えたいこと』が、なかなかみえてこず、締切に焦る日々が第5講座まで続きました。どこまで成長できたかわかりませんが、自分で考えることの大切さ、わからないことや悩みは相談したり、頼ってもいい。ありのままの自分で大丈夫と思えるようになったのが、この半年の大きな変容面です。

養成学校を通して印象に残っていることは、2点あります。①与謝野町での対面学習。事前の映像や文献予習とでは実際と覚えることが違い、リアルの大事さを感じました。②自主ゼミで「何かおもしろいことを言おう！」と提案があったけれど、その部分は最後までできず、考え方(人前が苦手、過緊張)は、なかなか変えられないということも実感しています。

最後に、養成学校での出会い(人、学び)は、これからの自分自身の心の支えです。半年間、支えてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

新瑞福社会 たんぽぽ保育園 崎岡 晴美

今年の受講者を決める時になかなか決まらず、理事長から直接声がかかりました。自分にやり切れるのか、私でいいのかと悩みましたが、折角声をかけてもらったので頑張ってみようと受講を決めました。

主任業務をする中で、悩むことも多く、気持ちも内に向いていました。日々の忙しさを理由に学ぶこともできていませんでした。

この養成学校では、日頃なかなか考えないことに向き合い、知らなかったことを知れる楽しさを感じることも出来ました。特に印象的だったことは、自主ゼミです。航海日誌やゼミを重ねるうちにみんなの人となりも分かり、意見を少しは言えるようになっていきました。みなさんの話を聞くことで、自分にはない視点に気づくこともできました。次々やってくる課題の多さに大変さはありませんでしたが、それ以上に新しい学びとなかまとの出会い、繋がりを得ることができました。養成学校は一人で乗り越えるものではありません。職場、ゼミ、養成学校同期のなかまがいます。同じ未来を目指すなかまが今後も増えていくことを願っています。半年間たくさんの学びをありがとうございました。

宮城厚生福祉会 古川くりの木保育園 鶴谷 美奈

養成学校を受講した理由は、昨年度申込みをしましたが法人から1人ということで今年参加する事になりました。保育からは初めての参加で、自分の課題に向き合うことや養成校で学んだことを法人内の園長と共有していきたいと受講しました。受講前の自らの課題は、自分の思いを言葉で伝えることや深く物事を掘り下げて考えることでした。

第1～第5講座で出される課題やプレゼンテーションに直面する度に、自分の考えの浅さに落ち込みましたが、講座を重ねるごとに、どうしたらわかりやすく相手に伝えることができるか、自分の言葉ってなんだろうと意識をするようになりました。印象的だったのは、第3講座でゼミの仲間に会えたことです。ゼミのみんながいてくれたから、この半年間乗り越え、頑張る事ができました。沢山の刺激をもらえ、自分は一人じゃないと思えるゼミの仲間は心の支えになります。

はとのさと福祉会 法人事務局 古跡 健二

- 1.社会福祉の世界での経験が浅く、様々な法人から参加があるということから、自信の見識を広め、またそれを日々の仕事にいかすため。今後押し寄せてくる、本来必要のないはずの他園との競争に耐えうる力を身につけるため。
- 2.人に物事を伝えることを苦手としていた。自身の頭で考えている事がうまく伝える事を苦手としていた。

- 3.伝える力は毎回のプレゼンでかなり成長できたのではないかと思う。また様々な法人の話を聞き、目指すべき未来も見つけられたように思う。
- 4.与謝野町のよさのうみ福祉会。地域の財産とはこれのことかと感じた。いつかはしょうがい者施設の運営もおこなっていきたいと考えているなかで、目指すものが見つけた。
- 5.自分の知らない世界、知ってるだけの世界がまだまだ、たくさんあります。それを仲間との会話の中で実在する姿を実感したり、目の当たりにすることで自分の世界が大きく広がると思います。そのうえで学びの場を提供してくれる管理者養成学校は文句なしにおススメできます。忙しいからと思っている人がほとんどかと思いますが、受講生の中で忙しくなかった人はいなかったと思います。なんとかなります。

4.第4期受講生名簿

2024年度管理職養成学校ゼミ編成						
通番	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
1	1	A 南中 智行	大阪あゆみ福祉会	あゆみ保育園	主任	保育
2	2	A 梅津 隆夫	やまがた市民福祉会	特別養護老人ホームとかみ共生苑	施設長・理事・在宅サービス部長	高齢
3	3	A 池谷 公余	たんぼぼ会	はらっぱ保育園	園長	保育
4	4	A 中村 裕美	名古屋キリスト教社会館	菜の花保育園	副園長	保育
5	5	A 菅野 由美子	大阪福祉事業財団	すみれ乳児院	施設長	その他
6	6	A 橋本 賀永子	虹の子会	川西共同保育園	主任	保育
I	担任	萩原 哲平	頓野児童福祉会	下境保育園		
II	担任	仁木 悟	さつき福祉会	あいほうぶ吹田		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
7	1	B 内藤 拓史	天白福祉会	あおぞら保育園	法人事務局	保育
8	2	B 黒田 博美	結い	ワークハウス・わくわく!	所長	障害
9	3	B 仲村 粉雪	大阪あゆみ福祉会	あゆみ東保育園	主任	保育
10	4	B 古賀 華子	たんぼぼ福祉会	つくし保育園	副園長	保育
11	5	B 西山 美乃	はとのさと福祉会	はとのさと保育園	園長	保育
12	6	B 中村 由起	どんぐり福祉会	久宝寺保育園	主任	保育
I	担任	伊藤 輝人	名古屋キリスト教社会館	発達センターちよだ		
II	担任	西田 健太	多摩福祉会	砧保育園		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
13	1	C 中本 琢也	多摩福祉会	練馬区立向山保育園	園長	保育
14	2	C 東 麻梨江	麦の芽福祉会	なかまの夢工房/すばる	管理者	障害
15	3	C 松田 しよ	さつき福祉会	第二さつき障害者作業所	副施設長	障害
16	4	C 梶村 智美	名北福祉会	めだか保育園	園長	保育
17	5	C 田中 順子	西成若草会	どんぐり保育園	園長代理	保育
18	6	C 山田 啓子	静岡福祉会	こぐま保育園	事務長	保育
I	担任	五藤 清子	さざんか福祉会	どろんこ保育園		
II	担任	寺田 恒	大阪福祉事業財団	本部		
	番号	名前	法人	勤務先	役職名	種別
19	1	D 川崎 和也	かわち野福祉会	軽費老人ホーム ケアハウスかわち野里	施設長	高齢
20	2	D 飛松 芙美子	コスモス	コスモスケアホームせんぼく	施設長	障害
21	3	D 河村 聡子	あおぞら	あおぞら第2保育園	副園長	保育
22	4	D 崎岡 晴美	新瑞福祉会	たんぼぼ保育園	主任	保育
23	5	D 鶴谷 美奈	宮城厚生福祉会	古川くりの木保育園	園長	保育
24	6	D 古跡 健二	はとのさと福祉会	法人本部事務局	法人本部事務局次長	保育
I	担任	吉川 継史	愛児福祉会	口田なかよし保育園		
II	担任	関口 奈緒美	ふたかみ福祉会	大西記念センター		

5. ディプロマポリシー

社会福祉経営全国会議 管理職養成学校ディプロマポリシー

管理職養成学校は、権利としての社会福祉を追求する民主的法人経営の担い手づくりを目指し、地域要求を見極める力、先を見通す力、経営戦略を組み立てる力、実行する力を育てます。そのために、受講生が修得すべき力をディプロマ・ポリシー(修了の基準)として以下のように定めます。

★ 知識・技術 — 総合的判断力を養うために蓄積すべき力

- ・ 社会福祉法人を取り巻く情勢について、歴史や現状分析を通して理解します。
- ・ 自法人の経営課題を理解したうえで、他法人・他業種の経営状況についても学び、社会福祉経営に関する識見を深めます。
- ・ プレゼンテーションを通して自分自身の言葉で「わかりやすく伝える」「理解を促す」「相手の心を動かす」技術を身につけます。

★ 共感力・発信力 — 多様な人々との交流を通じて、他者の考えを受け止め、自らを表現する力

- ・ 他法人の管理者とのネットワーク構築に努め、よりよい社会福祉経営実践に活かします。
- ・ 「共感し合う」「意見を引き出す」「意図を伝える」など、コミュニケーションを通じて、組織の方向性を導き出します。
- ・ 地域住民や企業を含む諸団体との共同により、新たな福祉ニーズを耕し、必要な社会資源創出に努めます。

★ 思考力・判断力 — 自組織や地域の課題を多面的に捉え、創造的に考える力

- ・ 社会福祉法人を取り巻く情勢の現状に対して、自身や自法人が何をすべきか分析し、どのような変容が必要か判断します。
- ・ 他法人や他業種からの学びを基にして、自法人の財務状況を含む経営課題を分析し、組織運営に活かす力を身につけます。
- ・ 当事者や地域住民の要求を実態から捉え、その要求を根幹に据えた中長期事業計画を作成します。

★ 決断力・実行力 — 民主的法人経営の前進を目指して積極的に挑戦し、やりきる力

- ・ 個々の力を引き出し、組織的な意思決定ができるように集団を導きます。
- ・ 自法人の理念や地域福祉の観点、管理者自らの意志を反映した事業戦略を実行します。
- ・ 当事者地域や住民との共同性を礎として、権利としての社会福祉事業を推進します。

2024年1月25日